

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指標	計算式	単位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解説
1.安心：すべての国民が安心しておいしく飲む水道水の供給										
a) 水資源の保全										
水源利用率	$(\text{一日平均配水量}/\text{確保している水源水量})\times 100$	%	—	48.2	78.0	79.1	77.5	78.0	79.4	平均するなどの程度水源を利用しているのかを表しています。値が100%に近いほど、効率的ですが水源にゆとりがないことになります。
水源余裕率	$[(\text{確保している水源水量}/\text{一日最大配水量})-1]\times 100$	%	—	63.0	14.4	10.0	9.9	13.3	12.2	一年で最も多く使用された日の水量が、確保している水源のどのくらいに当たるかを表しています。値が大きいほど水源に余裕があることとなります。
原水有効利用率	$(\text{年間有効水量}/\text{年間取水量})\times 100$	%	↑	96.9	96.0	95.8	95.9	96.2	96.2	取水した原水に対して有効に使われた水量割合を表しています。値は100%に近いほど効率的です。
自己保有水源率	$(\text{自己保有水源水量}/\text{全水源水量})\times 100$	%	—	100	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	水源運用の自由度を表しています。
取水量1m3当たり 水源保全投資額	水源保全に投資した費用/その流域からの取水量	円/m3	↑		0.26	0.25	0.26	0.26	0.25	水源保全への投資に対する割合を表しています。値が大きいほど水源保全に取り組んでいることとなります。
現状と課題：上限を定められているため余裕があるとは言えないが、限られた水源を有効に利用できている。今後水源開発の必要性を検討する。										
b) 水源から給水栓までの水質管理										
原水水質監視度	原水水質監視項目数	項目	↑		51	51	51	50	44	原水監視の取組状況を表しています。値が大きいほど多くの項目の検査を行っています。
連続自動水質監視度	$(\text{連続自動水質監視装置設置数}/\text{一日平均配水量})\times 1,000$	台/(1,000m3/日)	↑		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	給水区域における水質検査箇所（自動監視装置）の割合を表しています。値が大きいほど多くの箇所でも水質の連続監視をしています。
水質基準不適合率	$(\text{水質基準不適合回数}/\text{全検査回数})\times 100$	%	↓		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	給水栓での水質基準値に対する不適合割合を表しています。値が小さいほど良質な水ということとなります。
カビ臭から見たおいしい水達成率	$[(1-\text{ジェオスミン最大濃度}/\text{水質基準値})+(1-2\text{-メチルイソボルネオール最大濃度}/\text{水質基準値})]/2\times 100$	%	↑		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	水質基準を満たした上で、かび臭から見たおいしい水の達成度を表しています。値が大きいほどおいしい水ということとなります。
塩素臭から見たおいしい水達成率	$[1-(\text{年間残留塩素最大濃度}-\text{残留塩素水質管理目標値})/\text{残留塩素水質管理目標値}]\times 100$	%	↑		87.50	82.50	100.00	82.50	75.00	水質基準を満たした上で、塩素臭から見たおいしい水の達成度を表しています。値が大きいほどおいしい水ということとなります。
総トリハロメタン濃度水質基準比	$(\text{総トリハロメタン最大濃度}/\text{総トリハロメタン濃度水質基準値})\times 100$	%	↓		1.10	10.40	0.00	6.00	6.00	水質基準を超えた度合いを表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
有機物（TOC）濃度水質基準比	$(\text{有機物最大濃度}/\text{有機物水質基準値})\times 100$	%	↓		17.30	10.00	0.00	18.33	20.00	水質基準を超えた度合いを表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
農薬濃度水質管理目標比	$\sum(x_i/X_i)/n\times 100$ （農薬とは、水質管理目標設定項目に定められた方法によって測定された農薬のことである。xiとは、各農薬の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各農薬の管理目標値をいう。nとは、水道事業者の水質検査計画書に記載の農薬の数をいう。）	%	↓		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	農薬は種類が多く、全ての種類を測定するのは困難なので、水質検査計画書による農薬の濃度の目標値に対する割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
重金属濃度水質基準比	$\sum(x_i/X_i)/6\times 100$ （重金属とは、カドミウム及びその化合物、水銀及びその化合物、セレン及びその化合物、鉛及びその化合物、ヒ素及びその化合物及び六価クロム化合物の6種をいう。xiとは、各重金属の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各重金属の水質基準値をいう。）	%	↓		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	水質基準項目のうち、6種類による測定濃度の割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「—」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指標	計算式	単位	望ましい値	用水供給中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解説
無機物質濃度水質基準比	$\Sigma(x_i/X_i)/6 \times 100$ (無機物質とは、アルミニウム及びその化合物、塩化物イオン、カルシウム・マグネシウム等(硬度)、鉄及びその化合物、マンガン及びその化合物、ナトリウム及びその化合物の6種をいう。xiとは、各無機物質の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各無機物質の水質基準値をいう。)	%	↓		6.06	5.11	5.11	9.38	8.97	水質基準項目で定めた、無機物質6種類による測定濃度の割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
有機物質濃度水質基準比	$\Sigma(x_i/X_i)/4 \times 100$ (有機物質濃度とは、陰イオン界面活性剤、非イオン界面活性剤、フェノール類、色度の4種をいう。xiとは、各有機物質の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各有機物質の水質基準値をいう。)	%	↓		6.00	0.00	0.00	1.50	0.00	水質基準項目で定めた、有機物質4種類による測定濃度の割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
有機塩素化学物質濃度水質基準比	$\Sigma(x_i/X_i)/9 \times 100$ (有機塩素化学物質とは、水質基準に定められている四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、ジクロロエタン、シス1,2-ジクロロエチレン、トランス1,2-ジクロロエチレン、トリクロロエチレン、ベンゼンの7種と、水質管理目標に定められている1,2-ジクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタンの2種の合計9種をいう。xiとは、各有機塩素化学物質の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各有機塩素化学物質の水質基準値、又は管理目標値をいう。)	%	↓		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	水質基準値7種類と水質管理目標2種類による測定濃度の割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
消毒副生成物濃度水質基準比	$\Sigma(x_i/X_i)/5 \times 100$ (消毒副生成物とは、臭素酸、クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、トリクロロ酢酸、ホルムアルデヒドの5種をいう。xiとは、各消毒副生成物の給水栓での年間測定最大濃度をいう。Xiとは、各消毒副生成物の管理目標値をいう。)	%	↓		0	2	2	0	0	代表的な消毒副生成物5種類による測定濃度の割合を表しています。値が小さいほど良質な水であることとなります。
活性炭投入率	(年間活性炭投入日数/年間日数)×100	%	↓		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	原水中のにおいを低減するため、浄水場で活性炭を投入した日数の割合です。値が小さいほど良質な水であることとなります。

現状と課題：水質基準を満たし、「おいしい水」も達成できている。引き続き現在の水質管理の体制を継続する。

2.安定：いつでもどこでも安定的に生活用水を確保

a) 連続した水道水の供給

浄水予備力確保率	$[(\text{全浄水施設能力} - \text{一日最大浄水量}) / \text{全浄水施設能力}] \times 100$	%	—	23.8	10.5	6.9	6.9	9.6	8.8	給水に対する安定性及び災害、事故等に対する危機対応性を表しています。値が大きいほど柔軟な対応が可能となります。
配水池貯留能力	配水池総容量/一日平均配水量	日	↑	0.37	0.39	0.38	0.39	0.39	0.38	給水に対する安定性及び災害、事故等に対する危機対応性を表しています。値が大きいほど長時間の緊急対応が可能となります。
給水制限数	年間給水制限日数	日	↓		0	1	0	0	0	お客様への給水サービスの安定性を表しています。

現状と課題：現在の施設では余力が十分とは言えず、末端への安定給水のためには構成市町村との協力が重要となる。今後施設の拡充を検討する。

b) 将来への備え

経年化浄水施設率	(法定耐用年数を超えた浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	%	↓	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	法定耐用年数を超えている水道施設の割合で、老朽化の度合いを表しています。値が小さいほど長期の安定運転が可能となります。
経年化設備率	(経年化年数を超えている電気・機械設備数/電気・機械設備の総数)×100	%	↓	35.6	28.0	28.0	27.96	54.98	75.00	法定耐用年数を超えている水道施設の老朽化の割合を表しています。値が小さいほど長期の安定運転が可能となります。
経年化管路率	(法定耐用年数を超えた管路延長/管路総延長)×100	%	↓	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	法定耐用年数を超えている水道施設の老朽化の割合を表しています。値が小さいほど長期の安定運転が可能となります。
管路の更新率	(更新された管路延長/管路総延長)×100	%	↑	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	管路の信頼性確保のため、1年間で更新された管路延長の割合を表しています。値が大きいほど古い管路が減ったこととなります。
管路の更生率	(更生された管路延長/管路総延長)×100	%	—		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	既設配水管等の1年間に実施された内面補修の割合を表しています。
バルブの更新率	(更新されたバルブ数/バルブ設置数)×100	%	↑	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	管路の信頼性と維持管理性確保のため、1年間で更新されたバルブ数の割合を表しています。値が大きいほど古いバルブが減ったこととなります。
管路の新設率	(新設管路延長/管路総延長)×100	%	—	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	給水サービスをお客様に提供できる地域を広げるための年間の管路整備の割合を表している。

現状と課題：耐用年数の短い施設で経年化設備はあるが、計画的に更新している。管路については耐用年数は超えていないが、今後耐震化等の検討をする必要がある。

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「—」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指 標	計 算 式	単 位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解 説
c) リスクの管理										
水源の水質事故数	年間水源水質事故件数	件	↓	0.0	0	0	0	0	0	お客様へ給水サービスの安定性を表しています。値が小さいほど高い安定を示します。
幹線管路の事故割合	(幹線管路の事故件数/幹線管路延長)×100	件/100km	↓	0.000	0.00	1.42	0.00	0.00	0.00	特に重要度の高い配水管等の健全性を表したものです。値が小さいほど高い安定を示します。
系統間の原水融通率	(原水融通能力/受水側浄水能力)×100	%	↑		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	他系統からの融通可能な原水水量の割合であり、水運用の安定性、柔軟性及び危機対応性を表しています。値が大きほど柔軟な対応が可能となります。
浄水施設耐震率	(耐震対策の施されている浄水施設能力/全浄水施設能力)×100	%	↑	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	浄水施設の耐震率で地震災害に対する安全性を表しています。値が大きほど地震に対して安全性が高いこととなります。
ポンプ所耐震施設率	(耐震対策の施されているポンプ所能力/全ポンプ所能力)×100	%	↑	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	ポンプ所の耐震率で地震災害に対する安全性を表しています。値が大きほど地震に対して安全性が高いこととなります。
配水池耐震施設率	(耐震対策の施されている配水池容量/配水池総容量)×100	%	↑	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	配水池の耐震率で地震災害に対する安全性を表しています。値が大きほど地震に対して安全性が高いこととなります。
管路の耐震化率	(耐震管延長/管路総延長)×100	%	↑	20.8	23.3	24.7	24.7	24.7	24.7	管路の耐震率で地震災害に対する安全性を表しています。値が大きほど地震に対して安全性が高いこととなります。
薬品備蓄日数	平均薬品貯蔵量/一日平均使用量	日	↑	21.8	37.2	51.6	70.0	39.5	47.3	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表しています。値が大きほど災害時等の安定供給が可能となります。
燃料備蓄日数	平均燃料貯蔵量/一日使用量	日	↑	0.7	0.5	0.7	0.8	0.8	0.7	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表しています。値が大きほど災害時等の安定供給が可能となります。
自家発電設備容量率	(自家発電設備容量/当該設備の電力総容量)×100	%	↑	60.0	53.1	53.1	53.1	53.1	53.1	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表しています。値が大きほど災害時等の安定供給が可能となります。
警報付施設率	(警報付施設数/全施設数)×100	%	↑		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	水道施設の安全性確保への取り組みを表します。値が大きほど災害時等の早期対応が可能となります。
現状と課題：全国中間値と比較して悪いわけではないが、今後リスクを減らすためにも管路の耐震化を検討していく。										

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「-」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指 標	計 算 式	単 位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解 説
3.持続：いつまでも安心できる水を安定して供給										
a) 地域特性にあった運営基盤の強化										
営業収支比率	(営業収益/営業費用)×100	%	↑	138.6	166.9	166.9	171.9	174.9	169.9	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを表しています。値が大きいほど柔軟な運営が可能となります。
経常収支比率	[(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)]×100	%	↑	110.4	110.1	114.0	125.5	139.8	139.0	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表しています。値が大きいほど柔軟な運営が可能となります。
総収支比率	(総収益/総費用)×100	%	↑	109.7	110.1	114.0	125.5	139.8	139.0	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを表しています。値が大きいほど柔軟な運営が可能となります。
累積欠損金比率	[累積欠損金/(営業収益-受託工事収益)]×100	%	↓	0.0	262.7	247.0	224.1	192.5	161.0	経営状況の健全性を示し、事業の悪化の度合いを表しています。値が小さいほど健全な運営を行っていることとなります。
繰入金比率（収益的収支分）	(損益勘定繰入金/収益的収入)×100	%	—	2.3	10.6	9.7	7.2	4.2	3.7	独立採算制を基本とする水道事業の他会計からの依存度を表しています。値が小さいほど他会計への依存度が低くなります。
繰入金比率（資本的収入分）	(資本勘定繰入金/資本的収入)×100	%	—	29.0	85.4	17.8	8.1	100.0	100.0	独立採算制を基本とする水道事業の他会計からの依存度を表しています。値が小さいほど他会計への依存度が低くなります。
職員一人当たり給水収益	(給水収益/損益勘定所属職員数)/1,000	千円/人	↑	93,653	114,711	115,263	115,056	102,263	115,396	職員一人当たりの生産性を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。
給水収益に対する職員給与費の割合	(職員給与費/給水収益)×100	%	↓	10.2	7.4	7.1	7.6	8.1	7.7	収益に対する職員の人件費の割合を示し、事業の効率性を表しています。値が小さいほど効率がよいことを示します。
給水収益に対する企業債利息の割合	(企業債利息/給水収益)×100	%	↓	20.1	43.6	40.3	29.4	18.6	16.6	収益に対する借入金利息の割合を示し、事業の効率性及び財務安全性を表しています。値が小さいほど柔軟な運営が可能となります。
給水収益に対する減価償却費の割合	(減価償却費/給水収益)×100	%	↓	35.1	40.1	40.3	38.1	36.1	34.3	収益に対する減価償却費の割合を示し、事業の効率性を表しています。値が小さいほど効率がよいことを示します。
給水収益に対する企業債償還金の割合	(企業債償還金/給水収益)×100	%	↓	39.5	52.8	133.6	279.2	65.8	66.2	収益に対する借入金の元金償還の割合を示し、経営に与える影響を表しています。値が小さいほど柔軟な運営が可能となります。
給水収益に対する企業債残高の割合	(企業債残高/給水収益)×100	%	↓	509.0	713.0	656.0	597.1	531.4	463.5	収益に対する借入金の残高割合を示し、経営に与える影響を表しています。値が小さいほど柔軟な運営が可能となります。
料金回収率（給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合）	(供給単価/給水原価)×100	%	↑	105.4	93.5	96.4	109.8	125.7	126.0	給水に係る費用が料金収入でどの程度賄われているかを示し、事業の健全性を表しています。値が大きいほど経営が健全であることを示します。
供給単価	給水収益/有取水量	円/㎡	—	100.6	68.0	67.1	68.3	68.0	67.0	収益につながる給水量1㎡当たりについて、どの程度収益を得ているかを表しています。
給水原価	(経常費用-(受託工事費+材料及び不用品売却原価+附帯事業費))/有取水量	円/㎡	↓	94.9	72.7	69.6	62.2	54.1	53.2	収益につながる給水量1㎡当たりについて、どの程度費用をかけているかを表しています。値が小さいほど効率がよいことを示します。

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「—」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指 標	計 算 式	単 位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解 説
有収率	(有収水量/給水量)×100	%	↑		100.0	99.7	100.0	100.0	99.8	年間給水量に対し、収益につながった給水量の割合を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。
施設利用率	(一日平均給水量/一日給水能力)×100	%	↑	65.1	79.9	81.0	79.4	79.8	81.3	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。
施設最大稼働率	(一日最大給水量/一日給水能力)×100	%	↑	76.2	89.5	93.1	93.1	90.4	91.2	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。
負荷率	(一日平均給水量/一日最大給水量)×100	%	↑	86.4	89.3	87.0	85.2	88.3	89.1	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。
流動比率	(流動資産/流動負債)×100	%	↑	1042.0	4,711.6	4,999.8	6,024.6	12,547.1	14,367.5	1年以内の短期債務に対する支払能力を示し、事業の財務安全性を表しています。値が大きいほど健全であることを示します。
自己資本構成比率	[(自己資本金+剰余金)/負債・資本合計]×100	%	↑	65.8	77.4	79.0	69.9	72.8	75.4	総資本（負債及び資本）に占める自己資本の割合を示し、財務の健全性を表しています。
固定比率	[固定資産/(自己資本金+剰余金)]×100	%	↓	142.4	123.2	119.5	133.5	125.5	121.4	自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを表しています。値が小さいほど健全であることを示します。
企業償還元金対減価償却費比率	(企業償還元金/当年度減価償却費)×100	%	↓	112.5	126.7	133.2	157.5	182.1	193.2	投下資本の回収と再投資のバランスを表しています。値が小さいほど柔軟な再投資を計画できます。
固定資産回転率	(営業収益-受託工事収益)/(期首固定資産+期末固定資産)/2]	回	↑	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	固定資産に対する営業収益の割合を示し、期中に固定資産の何倍の営業収益があったかを表しています。値が大きいほど柔軟な再投資を計画できます。
固定資産使用効率	(給水量/有形固定資産)×10,000	m3/10,000円	↑		7.3	7.6	7.6	7.7	7.9	有形固定資産に対する年間総給水量の割合を示し、施設の効率性を表しています。値が大きいほど効率がよいことを示します。

現状と課題：各指標は良好であるが、累積欠損金比率は依然として不安要素である。引き続き経営改善に努める。

b) 水道文化・技術の継承と発展

職員資格取得度	職員が取得している法定資格数 / 全職員数	件/人	↑	0.77	2.25	2.25	2.25	2.11	2.38	職員の法定資格数を表しています。
民間資格取得度	職員が取得している民間資格取得数 / 全職員数	件/人	↑		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	職員の民間資格数を表しています。
外部研修時間	(職員が外部研修を受けた時間・人数) / 全職員数	時間	↑		1.3	1.3	7.5	12.4	25.0	職員の資質向上のため実施された外部研修時間数を表しています。
内部研修時間	(職員が内部研修を受けた時間・人数) / 全職員数	時間	↑		0.5	1.8	1.5	10.7	3.5	職員の資質向上のため実施された内部研修時間数を表しています。
技術職員率	(技術職員総数 / 全職員数) × 100	%	—	69.7	75.0	75.0	75.0	66.7	75.0	水道事業に携わる職員の技術職員の割合を表しています。
水道業務経験年数度	全職員の水道業務経験年数 / 全職員数	年/人	—	18.0	11.5	11.4	12.4	14.1	17.0	全職員の水道業務経験年数の割合を表しています。
技術開発職員率	(技術開発業務従事職員数 / 全職員数) × 100	%	↑		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	水道技術開発に対する人的投資の割合を表しています。
技術開発費率	(技術開発費 / 給水収益) × 100	%	↑		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	水道技術開発に対する投資費用の割合を表しています。
職員一人当たり配水量	年間配水量 / 全職員数	m3/人	↑		1,694,000	1,722,000	1,684,137	1,505,057	1,724,413	職員一人当たりの効率性を表しています。
公傷率	[(公傷で休務した延べ人・日数) / (全職員数 × 年間公務日数)] × 100	%	↓		0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	水道事業における安全衛生管理状況を表しています。

現状と課題：経営効率化のため、職員数を減らしてきたため、一方で技術の継承が困難となっている。継承について方策を検討する必要がある。

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「—」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指 標	計 算 式	単 位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解 説
c) 消費者ニーズを踏まえた給水サービスの充実										
監査請求数	年間監査請求件数	件	↓		0	0	0	0	0	法令に基づく監査請求の件数を表しています。
情報開示請求数	年間情報開示請求件数	件	↓		0	0	0	0	0	法令に基づく情報開示請求の件数を表しています。
現状と課題：情報開示に努める。										
4.環境：環境保全への貢献										
a) 地球温暖化防止、環境保全などの推進										
配水量1m3当たり 電力消費量	全施設の電力使用量 / 年間配水量	kWh/m3	↓		0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	環境保全への取り組み状況を表しています。
配水量1m3当たり 消費エネルギー	全施設での総エネルギー消費量 / 年間配水量	MJ/m3	↓		0.38	0.38	0.34	0.34	0.38	環境保全への取り組み状況を表しています。
再生可能エネルギー 利用率	(再生可能エネルギー設備の電力使用量 / 全施設の電力使用量) × 100	%	↑		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	電力使用料総量に対する太陽光発電などの再生可能エネルギーの利用割合を表しています。
浄水発生土の有効 利用率	(有効利用土量 / 浄水発生土量) × 100	%	↑	98.5	84.5	0.0	0.0	0.0	0.0	浄水過程における発生土の有効利用の割合を示し、環境保全への取り組みの状況を表しています。
建設副産物のリサ イクル率	(リサイクルされた建設副産物量 / 建設副産物排出量) × 100	%	↑	55.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	工事の際に発生する土砂などの有効利用の割合を示し、環境保全への取り組みの状況を表しています。
配水量1m3当たり 二酸化炭素(CO2) 排出量	[総二酸化炭素 (CO2) 排出量 / 年間配水量] × 106	g・CO2/m3	↓	155.1	48.0	46.7	46.8	47.3	47.0	高低差などの地形条件により消費エネルギーは左右されますが、環境保全への取り組み状況を表しています。
現状と課題：地球温暖化防止への取り組みは、実行できているが、今後資源の有効活用も検討していく。										
5.管理：水道システムの適正な実行・業務運営及び維持管理										
a) 適正な実行・業務運営										
配水池清掃実施 率	[最近5年間に清掃した配水池容量 / 配水池総容量 / 5] × 100	%	↑		191.0	319.4	340.3	409.7	314.2	配水池の管理状況を表しています。
年間ポンプ平均稼 働率	[ポンプ運転時間の合計 / (ポンプ総台数 × 年間日数 × 24)] × 100	%	—		24.2	25.5	23.5	22.8	25.8	主要設備であるポンプの稼働状況を表しています。
浄水場第三者委 託率	(第三者委託した浄水場能力 / 全浄水場能力) × 100	%	—	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	水道事業における外部委託の状況を表しています。
現状と課題：現在特に問題ない。今後も適正な業務に努める。										

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「—」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。

「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標算出結果一覧

指 標	計 算 式	単 位	望ましい値	用水供給 中間値	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	解 説
b) 適正な維持管理										
浄水場事故割合	10年間の浄水場停止事故件数 / 浄水場総数	10年間の件数/箇所	↓		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	必要とされる水量の一部でも送水できなかった事故の割合を示し、給水サービスに対する信頼性を表しています。
ダクタイル铸铁管・鋼管率	[(ダクタイル铸铁管延長 + 鋼管延長) / 管路総延長] × 100	%	↑	100	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	通常の铸铁管よりも強度に優れるダクタイル铸铁管及び鋼管の布設割合を示し、給水サービスの安定性を表しています。
管路の事故割合	(管路の事故件数 / 管路総延長) × 100	件/100km	↓	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	お客様へ給水サービスの安定性を示すとともに快適性、利便性を表しています。
鉄製管路の事故割合	(鉄製管路の事故件数 / 鉄製管路総延長) × 100	件/100km	↓		0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	お客様へ給水サービスの安定性を示すとともに快適性、利便性を表しています。
設備点検実施率	(電気・計装・機械設備等の点検回数 / 電気・計装・機械設備等の法定点検回数) × 100	%	↑		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	法定点検回数に対する有資格者による総点検回数の割合を示し、管理の適正度を表しています。
管路点検率	(点検した管路延長 / 管路総延長) × 100	%	↑		36.3	32.7	34.9	24.2	27.8	お客様へ給水サービスの安定性を示すとともに管路の健全性確保への取り組み状況を表しています。
バルブ設置密度	バルブ設置数 / 管路総延長	基/km	↑	4.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	配水操作の柔軟性や管路の維持管理の容易性を表しています。
現状と課題：現在特に問題ない。今後も適正な業務に努める。										
6.国際：我が国の経験の海外移転による国際貢献										
a) 技術の移転										
国際技術等協力度	人的技術等協力者数 × 滞在週数	人・週	↑		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	技術協力のための海外へ滞在した職員の人数等を示し、国際貢献の状況を表しています。
現状と課題：経営効率化により職員を減らしているため、技術協力派遣は困難である。										
b) 国際機関、諸国との交流										
国際交流数	年間人的交流件数	件	↑		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
現状と課題：経営効率化により職員を減らしているため、困難である。										

※望ましい値とは・・・
 「↑」高いほうが望ましい
 「↓」低いほうが望ましい
 「-」どちらともいえない

※用水供給中間値とは、全国の用水供給事業の平成18年度中間値（財団法人 水道技術研究センター公表値）をいう。